

令和3年 № 75
春ひがん号

あきばさん

発行人／発行所
秋葉山 新井 寺
272-0144
千葉県市川市新井
1丁目9の1
電話047-357-8319
FAX 047-357-8399
mail: info@shinseiji.jp
http://www.shinseiji.jp
郵便振替 00150-2-282968

春彼岸

東日本大震災 コロナ禍

当山住持

歴史に残る大きな被害を受けた東日本大震災から充分な復興もままならないうちに、早十年目の春彼岸を迎えます。加えて現在は、大切な人命にかかわる新型コロナウイルス感染症の大流行「コロナ禍」の影響を受けて、日本全国はもとより世界中が未曾有の大苦境に直面し、

亡くなる方も続出してその対応にこの上なく悩み苦しんでおります。まさに、この世の中は、人生は、一瞬一瞬、天災にしても人災にしても自然災害にしても、何が起きるか分からない苦の娑婆世界です。檀信徒の皆様方にはつねづねお話し申し上げておりますように、彼岸会は、毎年春分の日・秋分の日を中日として前後七日間に行われる仏教の伝統的行事です。「到彼岸」として、悩み苦しみ多き現実の



此の世界(此岸)から彼の理想の世界(彼岸)に到る心の修養行事です。一般的に多くの人々は、心豊かに平和に生かされていくのが人生ではないかと当たり前のように思っています。生活しがちではないでしょうか。

しかし、現実の世界は皆様方が日常生活を通じて体験しておられる通り、人間関係・利害関係をはじめ、何かにつけて思うにままならないことばかりです。私共日本人にとりまして七月・八月のお盆の行事とあわせ三月・九月のお彼岸の行事は、お釈迦様・歴代のお祖師様からの有難い仏縁・教えを受け、ご先祖様への正しい信仰心から、ご供養かたがた自分自身も心の修養を積み重ね、現実の悩み苦しみの多き此の岸より理想の彼岸お悟りの世界への大切な仏作仏行です。曹洞宗檀信徒の皆様には、一仏両祖様及びお互いのご先祖様の教えや思いをそれぞれに正しく認識継承されて、昔からのお彼岸の行事を毎年それなりに実践し、日常生活に平和的に活用され功德を積んでおられることと存じます。本年の春彼岸会もお互いにさらに信仰心を高められ、お悟りの理想の世界に到る六度―布施(見返りを求めない施し)、持戒(教えを實行し他者を思いやる)、忍辱(耐え忍ぶ)、精進(たゆまぬ努力)、禅定(ブレない心)、智慧(真理をみきわめる)―の修行法を幾重にも実践されて、コロナ禍をはじめ、現実の人生における諸問題を、世のため、人のため、家族、自分自身のために少しでも役立ててはいかがでしょうか。

合掌

わたしたちの曹洞宗

そうとうしゅう

曹洞宗には二つのご本山「両大本山」があります。大本山永平寺（福井県）と大本山總持寺（横浜市鶴見）です。

「わたしたちの曹洞宗」第二回目は、信仰のみなもと「両大本山（ご本山）」について学んでみたいと思います。

◇ 大本山永平寺（福井県吉田郡）

大本山永平寺は、寛元二（一二四四）年に道元禪師が開かれました。三方を



大本山永平寺「山門」

山に囲まれた深山幽谷（人里離れた山深い静かな谷）の地にたたずんでいます。

道元禪師が寛元元（一二四三）年に土地の領主 波多野義重公に招かれて越前国

（福井県）に赴き、「傘松峰大仏寺」を開かれたことにはじまります。道元禪師

四十五歳のときと伝えられます。その二年後、「吉祥山永平寺」と改められました。

「永平寺」という名前には、人びとの

永遠の平和としあわせを願う深いお心が込められています。

現在も百余名の修行僧が、七七〇余年脈々と受け継がれてきた坐禅を中心とした綿密な修行に精進しています。

● 大本山永平寺のおもな伽藍

寺院の建物を「伽藍」といいます。

大本山永平寺には、七堂伽藍（修行生活に重要な七つの建物―山門・仏殿・僧堂・

庫院（厨房・台所）・東司（お手洗い）・浴室・法堂）をはじめとする大小七〇余りの建物が建ち並んでいます。創建以来、

何度かの災害を受けましたが、そのたびごとに復興し、現在の伽藍が整えられています。令和元年には、十九棟が国の重

要文化財に指定されました。そのうちのいくつかをご紹介します。

◎ 承陽殿：明治十四（一八八二）年改築。

御開山道元禪師の御真廟（御霊屋）。階段を上った奥の本殿は、昭和五十六（一九八二）年に改修。中央に道元禪師の御尊像と御霊骨がまつられています。

☆ 法堂：天保十四（一八四三）年改修。

「聖観世音菩薩（観音様）」がまつられています。永平寺の七堂伽藍の中でもっとも奥まった高いところにあり、説法やさまざまな法要が行なわれます。

☆ 仏殿：明治三五（一九〇二）年改築。

二重屋根と石畳の床の中国 宋時代様式。永平寺のご本尊「釈迦牟尼仏」がまつられています。

☆ 僧堂：明治三五（一九〇二）年改築。

坐禅・食事・就寝などの修行の根本道場。中央に智恵の「文殊菩薩」がまつられています。

☆ 山門（上段写真）：寛延二（一七四九）

年再建。中国 唐時代様式の楼閣門。見上げた中央に「日本曹洞第一道場」の額。両柱の聯（漢詩の対句が書かれた細長い板）には、「永平寺の家風は非常に厳格である、地位や富がある者でも、真に仏法を求める者でなければこの門をくぐることはゆるされぬ。それでも

この門は常に開け放たれているから、真に求道心のある者はいつでも入ってきなさい」と記されています。

◇ 大本山總持寺（横浜市鶴見区）

大本山總持寺は、元亨元（一二三二）年、瑩山けいざんぜんじ禪師が、能登国くしひのしょう櫛比之庄（石川県輪島市）諸嶽寺もろおかでら（真言律宗・諸嶽觀音堂しよがくかんのんどう）の住職 定賢じやうけんりっし律師の要請を受けて入山したことはじまります。瑩山禪師五十八歳のときと伝えられます。



大本山總持寺「大祖堂（だいそどう）」

仏法が充ち満ち保たれている総府として「總持寺」と改名し、山号はその前身である「諸嶽觀音堂」の仏縁にちなんで「諸嶽山しよがくざん」とつけられました。

● 能登から鶴見丘へのご移転

大本山總持寺は、能登の地において七〇年余りにわたり曹洞宗の興隆と正法教化につとめてこられました。ところが、明治三一（一八九八）年四月十三日夜、本堂の一部より出火、その猛火は全山に拡がり伽藍の多くを焼失してしまいました。この大火を受け、焼失した伽藍の復興だけではなく、ご本山存立の意義と現代における曹洞宗の使命を鑑みて、明治四四（一九一）年に現在の神奈川県横浜市鶴見区に移されました。その後、能登の總持寺は、再建され「祖院そいん」として地域の信仰のよりどころとなっています。

● 現在の大本山總持寺

現在の大本山總持寺は横浜市の郊外、JR鶴見駅よりわずか徒歩五分のところにあります。石原裕次郎さんの墓所があることでも知られています。

大本山永平寺と同じく禅の修行道場であるとともに、社会地域の文化の拠点にもなっています。

瑩山禪師には、未来永劫にわたって生きとし生けるすべてのものを迷いや苦しみから常に救い続けていくという誓願がありました。こんにちの大本山總持寺は、「開かれた禅苑」として、さまざまな教化行持・活動がおこなわれ、いたるところにその瑩山禪師のねがいを感じられます。また、「海の玄関」横浜に位置するところから、国際的な禅の根本道場としての役割も果たしています。

約十五万坪（五〇万㎡）の境内には、七堂伽藍をはじめとする諸堂が建ち並んでいます。その多くは、二〇世紀前半（大正から昭和前期）の木造建築で、ご本尊釈迦牟尼仏がまつられる「仏殿」など十六棟が国の登録文化財になっています。

また、御開山 瑩山禪師、道元禪師をはじめ歴代の祖師方がまつられる「大祖堂だいそどう」（上段写真）は、昭和四〇（一九六五）年に總持寺二祖峨山がざん禪師六〇〇回大遠忌を記念して落慶した鉄筋コンクリート造・千畳敷きの大伽藍で、朝夕のおつとめやささまざまな法要が行なわれています。

◎ おもな参考文献

- 大本山永平寺参拝リーフレット
- 大本山總持寺公式ウェブサイト

（副住職しるす）

＊ことしの行持

- 三月二十日 春ひがん法要
 - 四月八日 釈尊降誕会
 - 六月九日 先代住職二十七回忌
 - 七月十六日 おせがき法要
 - 九月二十三日 秋ひがん法要
 - 十一月十八日 秋葉火坊大祭
 - 十二月八日 釈尊成道会
 - 十二月三十一日 年越し坐禅会
- ＊ コロナ禍をかんがみ、変更や中止となる場合があります。

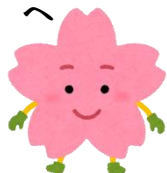
＊月例行持

- 坐禅会 第四日曜日 午後三時から
 - 写経会 第四土曜日 午前十時から
 - 梅花講 (御詠歌) 月二回 午前九時半
- ＊ 坐禅会・写経会・梅花講は、現在お休みさせていただいています。

「代参」のご案内

さまざまな事情で

お参りに来られない方へ



新井寺境内にお墓のある方は、ご命日・おひがん・お盆など、皆さまに代わってお花とお線香をお供えし、お墓参りをさせていただきます。お気軽にご相談くださいませ。

心に地球にお花を

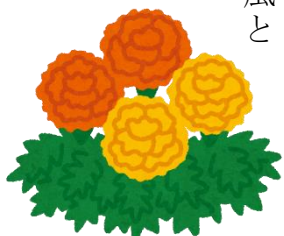
さかせましよう

今年も、(公社)全日本仏教婦人連盟様よりお花の種が届きました。"育てよう！みんなでお花を あなたのそばに！"をテーマに、花々と心を通わせ、思いやりの心を育ててほしいとの願いを込めた活動だそうです。

今年の種は、風船カズラ・ヒマワリ・オシロイバナ・マリーゴールド・ダリア・アサガオ。どれも春に種まきをする、夏に花がさくものばかりです。

種まきをして花を育てるためのポイントは、種まきをするときの土の深さと水やりです。深すぎるとなかなか芽が出てこられず、浅すぎるとお水やりをしたときに種が流れてしまいます。また、日々育っていく様子をたのしみに朝を迎えることや花が終わって種ができるのを心待ちにするところに植物を育てることの醍醐味があります。

いのちをたいせつに育てることは、わたしたちの心を豊かにします。新緑の心地よい季節、さわやかな風とやわらかい陽ざしの中で、種まきをたのしんでみてはいかがでしょう。



編集後記



数年前の新緑の季節、大本山永平寺様で十日間の参禅をさせていただいたことを思い出しています。早朝の暁天坐禅きょうてんざぜんの間に、全山を包みこむような重厚で荘厳おおぼんしやうな大梵鐘の余韻とともに聞こえてきた川のせせらぎの音、鳥たちのさえずり、虫たちの声が心に残っています。しっかりと雨の日は雨の日、からりと晴れた日には晴れた日の空気感がありました。坐禅堂内の緊張感、大梵鐘や自然の響きや空気感は、未熟なわたしをいささかなりとも身心の安定した坐禅に導いてくれたような気がしています。貴重な経験に感謝しています。

そして、階段を上り登り、ようやくたどり着いた法堂から眺める山滴やましたたる景色は、実にすがすがしく感じられました。

ご本山をお参りするとおのずと、襟を正し、背筋が伸びるおもいがします。修行道場という緊張感からなのか、広大な伽藍や取り囲む大自然に禅の奥深さや歴史を感じるのか。いずれにしても、百聞は一見に如かず。まいつの日か、皆様とお参りさせていただける機会をつくりたいと願っています。

何かと不安な毎日ですが、どうぞご自愛くださいませ。編集小子 合掌